あおもり漁連

代表理事会長　植村正治 書

資源有限漁業無限

No. 140

『ＪＦ改革（漁協合併）促進大会』

CONTENTS

『ＪＦ改革（漁協合併）促進大会』第14回活力と魅力溢れる漁村づくり青森県大会開催 …… 1
平成17年度青森県漁協組合長会議（日本海、むつ湾、下北太平洋地区）開催 …… 2
平成17年度「青森県豊かな海づくり大会」開催 …… 3
第５回「和船競漕大会」開催 …… 4
「青森県二一世紀の水産を創造する会」設立 …… 5
「青森県大型クラゲ漁業被害対策連絡検討会」設立 …… 6
県内漁協組合長改選報告 …… 7
認定漁協の申請期限まで後わずか！！ …… 7
水産に関する主な動き（７～９月） …… 8
浜の情報・話題 …… 9
　青森県内クラゲ情報
　なまこ礁の愛称募集中
　むつ小川原地域・産業振興財団の事業募集
県内漁協紹介（蟹田町漁協） …… 11

2005 10

21世紀は漁村の時代

『ＪＦ改革（漁協合併）促進大会』開催

第14回活力と魅力溢れる漁村づくり青森県大会

去る７月28日、青森県漁村活性化対策協議会並びに(社)青森県漁協経営安定対策協会主催による『ＪＦ改革（漁協合併）促進大会』が青森県水産ビルにおいて、県下漁協役職員ら約300人が参加し開催された。

今回の大会は、21世紀の活力ある漁業・漁村をつくるためには「水産基本法」に魂をきちんと入れることが重要であり、組合員の期待と信頼に応えられる経営基盤のしっかりした、真の自立ＪＦを構築することが緊急の課題であることから、平成17年度内に「認定漁協」を、更に「漁協合併促進法」の期限である平成19年度末までに「合併基本計画」の完遂を目指して開催された。

冒頭、主催者を代表し植村会長から「ＪＦ改革、漁協合併に残された時間は少ない。漁協の基盤がしっかりすることによって漁村に活力が生まれ、誰からも信頼される組織が構築出来る。そのためにも一定の規模を持った漁協合併が必要であり、本県においては15の枠による複数自立漁協構築を目指しており、皆さんにも決断していただきたい。」と述べた。

その後、基調講演では東京大学の加瀬教授が「漁業に必要な系統金融は市場を動かすための金融機能、資材の供給を支える金融機能、漁船建造等のための資金供与である。また、固定債務の解消については国の公共事業予算の一部を積み立てて運用するなどして解消することも出来るのではないか。そのためには漁業者自らがアクションを起こし要求していくべきだ。」と述べた。

また、水産庁の佐藤指導室長は「合併の阻害要因については財務格差や漁業者でない組合員がいる組合、漁業権管理組合、小規模組合等が合併にあまり関心がないことである。このような組合には組合員の資格審査（正組合員：年間90日以上漁業に従事する）を厳格に実施するべきと考える。(資格審査によって正組合員が20名未満になった場合、漁協は解散しなければならない)」と述べた。

最後に県漁連の西崎副会長から、ＪＦ改革の実現に向けた取組み及び国・県・市町村等へのＪＦ支援施策の確立要望が朗読され、満場一致で決議案が採択され、大会を閉会した。

大会決議

１．ＪＦ改革の実現に向けた取組

（１）青森県ＪＦグループの「合併基本計画」を促進法の期限までに完遂する。

（２）事業を改革し、組合員の期待に応えられる健全なＪＦ経営を実現する。

２．国・県・市町村等へＪＦ支援施策の確立要望

（１）「合併基本計画」の完遂に向けた支援を強化すること。

（２）合併ＪＦの事業・経営改革を支援する施策を講じること。

主催者挨拶を述べる植村会長

講演する加瀬教授

講演する佐藤指導室長

大会風景

『平成17年度青森県漁協組合長会議』開催
（日本海・むつ湾・下北太平洋地区）

去る９月６日から８日にかけて、青森県漁業協同組合連合会並びに(社)青森県漁協経営安定対策協会主催による「平成17年度青森県漁協組合長会議」が日本海、むつ湾、下北･太平洋の３ブロックで開催された。

今回の会議は平成14年11月に開催された全国漁協代表者集会において採択された、ＪＦグループの運動方針（平成15年度から平成17年度までの３ヶ年）が、危機意識、改革意欲の不足等により十分な成果が得られなかったことから、新たに18年度から３ヶ年の新運動方針策定について、青森県としての具体的な取り組みを決定するため、県下漁協組合長及び筆頭職員が出席し開催された。

下北･太平洋ブロックでは冒頭、植村会長が「現在の漁業を取り巻く情勢は燃油高騰、浜の金融、漁協合併等の問題がある中、特に漁協合併については本県の場合15の複数自立漁協で動いている。全国的に複数自立漁協は特例であるが、組合員の理解を得ながら早急に合併実現に向け、努力していただきたい」と挨拶を述べた。

会議では最初に、県漁連指導課の熊木課長代理が、ＪＦグループを取り巻く情勢及びＪＦ事業･組織･経営改革に向けた新運動方針（骨子案）並びに本県としての具体的な取り組み等について説明した。

〈ＪＦ事業･組織･経営改革に向けた新運動方針の実践にかかる基本認識〉

前回の運動方針において取り組んでいるＪＦ合併構想の完遂、トータルコスト30%削減等全国運動については、引き続き、目標達成に向けて取り組んでいくこととするが、これまでの取り組みの反省を生かし、**新運動方針においては危機的な状況におかれている現状をしっかり認識し、今後の展望を見据え、次代にしっかり受け渡しできる事業･組織を描くとともに、その実現に向けて、時間軸を明確にしながら、実効性を確保する仕組み･体制整備を進め、ＪＦグループの総意として取り組んでいく。**

重点取組事項（2006年度～2008年度までの運動期間における実践目標）

1．19年度末の「漁協合併促進法」期限を踏まえた漁協合併構想の完遂
- １県１漁協等の実現で、事業･組織･経営の抜本的な見直し･改革への体制づくり

2．赤字の事業利益の＂Ｖ字回復＂に向けた取り組みによる健全経営の確保
- Ｖ字回復への「計画」策定と「部門別損益管理」の実践による赤字ＪＦ等（事業利益段階）の解消、組合員への経営情報開示、コンプライアンス態勢の強化

3．組合員の漁業経営の安定に貢献するＪＦ事業改革の実践
- ＪＦ毎の魚価アップ、コスト削減、利用率向上目標の達成

4．漁業・漁村の活性化への貢献
- 資源状況に見合った生産構造の早期構築、生産の中核となる効率的かつ安定的な漁業経営の育成･確保等の実践とこれを支援する新たな政策の実現

その後、(社）経対協の葛西常務が本県の合併推進状況及び今後の課題について説明し、　最後に本県としての取組事項も含め、新運動方針（案）について全体討議が行われ、３ブロックで協議した内容を集約し、全漁連に提示する決議がなされた。

▶主催者挨拶を述べる植村会長

▶下北・太平洋地区

▶日本海地区

▶むつ湾地区

平成17年度「青森県豊かな海づくり大会」開催

平成17年度「青森県豊かな海づくり大会」が去る９月28日（水）平内町の「ほたて広場」において、県内漁協や水産団体関係者約200名が参加し盛大に開催された。

大会は先ず、隣接する土屋漁港において、むつ湾内の密漁監視船及び漁船10隻による海上パレードで幕を開け、続いて平内町救難所による漁船火災を想定した海難救助訓練が関係者の見守る中、実地さながらに執り行われた。続いて、平内町漁協土屋支所が「ライフジャケット着用推進モデル漁協」として海上保安庁の指定を受けたことにより、その指定証が、黒木喜年青森海上保安部長より交付された。指定証を受け取った太田徳一常任理事は、今後より一層救命胴衣の着用推進に努めることを誓った。

その後、会場を「ほたて広場」に移し、「青森県豊かな海づくり大会」の式典が行われた。

式典では、植村正治大会実行委員会会長が主催者の挨拶をし、続いて来賓として三村申吾県知事（長谷川義彦出納長代読）、山内和夫県議会議長が祝辞を述べた後、本県水産業で他の模範となる優れた実績を上げた、易国間漁協の金田一源五郎組合長、青森市漁業研究リーダー会（中村久雄会長）に対して、長谷川出納長より「青森県水産大賞」が贈られた。

表彰に続き、「豊かな海は森の育成から」というスローガンの下、植村大会実行委員会会長から逢坂雄一平内町長へ記念植樹の目録が贈呈された。続いて、平内町漁業連合研究会の後藤石雄副会長が「漁業経営の持続的安定について」と題して、また、青森県青年漁業士の長内詞子さんが「魚食普及活動と私たちの夢」と題して浜の声を発表した。

最後に、三津谷廣明大会実行委員会監事が大会決議を朗読し、満場一致で決議が行われた。

最後に、平内町小湊中央保育園児と大会関係者によるヒラメ・マコガレイ・メバルの稚魚放流が行われ、大会は盛会にうちに終了した。

挨拶を述べる植村会長

祝辞を述べる長谷川県出納長

祝辞を述べる山内県議会議長

浜の声を発表する後藤副会長

浜の声を発表する長内青年漁業士

海上パレード

海難救助訓練

指定書の交付

あおもり漁連

大会決議

昨今、燃油価格が高騰しており、漁船漁業から産地魚市場を含めた水産物流通全般にわたって重大な影響を及ぼしている。また、大型クラゲが大量に出現しており、深刻な漁業被害が生じることが懸念されている。燃油価格の急激な上昇や大型クラゲの大量出現は漁業活動の支障を招き、魚市場への水揚げ減少や加工原魚の不足などを生じさせる恐れがあることから、本県のみならず、国民の食料である水産物の安定供給を図る上で水産資源の永続的な利用が不可欠であり、より一層の効率的な漁業経営を行う必要にせまられている。

また、地域漁業・漁村を再生するため、漁協合併を促進する必要があり、さらには、県民の暮らしを支える豊かな自然である山・川・海をつなぐ水循環システムを再生・保全し、消費者が求める安全・安心で良質な水産物の生産・供給を推進することも重要な課題である。

よって、平成17年度青森県豊かな海づくり大会の開催にあたり、私たちは、青森県の豊かな自然と水産業を後世に継承するため、下記の通り決議する。

記

1. 燃油価格の高騰に備え、より効率的な漁業経営を行いながら、資源管理型漁業のさらなる推進を図る。
2. 大型クラゲの出現情報等を迅速に収集し、関係者との連携を密にしながら、クラゲによる漁業被害の軽減を図る。
3. 経営基盤のしっかりとした、真に自立できる漁協を構築し、地域漁業・漁村を再建するため、漁協の合併を促進する。
4. 山・川・海をつなぐ水循環システムの再生・保全を図り、消費者の求める安全・安心で良質な本県水産物の安定的な生産・供給を推進する。

平成17年9月28日

平成17年度青森県豊かな海づくり大会

「青森県水産大賞」記念撮影

ヒラメ・メバル・マコガレイ稚魚の放流

第５回「和船競漕大会」開催

“青い海公園・夏の風物詩”

去る７月23日、青森市の青い海公園で第５回「青森県和船競漕大会」が開催された。

大会は、和船による海上交易が盛んであった往時を偲び、車櫂（くるまがい）による操船技法の伝承を図るとともに、青森県の夏の風物詩として伝承的な行事に育てることを目的として開催された。

今年は県内各地から漁協・一般合わせて18チームが参加し熱戦が繰り広げられた。競技は、最初に小学生のボート競漕が行われた後、和船競漕に入り、漁協と一般の各２レースで予選を行い、各レースの１位の４チームが決勝戦に進んだ。参加者は独特のこぎ方を用する「車櫂」で日頃の練習成果を発揮、レースは白熱した展開となった。中には船同士が接触して前に進まない場面や、折角のリードを折り返し地点で追い抜かれる場面もあり、観客からは拍手や笑いが巻き起っていた。

＜レース結果は次のとおり＞

優　勝	戦艦やすかた （青森市漁業研究リーダー会）
準優勝	後潟漁業協同組合
第３位	舶作漁業協同組合
特別賞	発攻打丸（青森市役所港湾河川課）
	北斗の拳漁連（JF青森漁連）

競漕風景

「青森県二一世紀の水産を創造する会」設立

平成17年6月16日に発起人会を開催した「青森県二一世紀の水産を創造する会」が、6月27日水産ビルにおいて組織会を開催し、正式に発足した。

設立趣意、役員は次のとおり。

【設立趣意】

本県水産業は、県民や国民への水産物の安定的供給を通じ、健康的で豊かな食生活の一翼を担うとともに、地域経済や社会の発展に寄与するという極めて重要な役割を担っている。しかしながら、本県水産業を取り巻く環境は、周辺水域の資源減少、輸入水産物の増大、魚価の長期にわたる低迷、就業者の益々の減少と高齢化、漁業後継者の慢性的不足等、極めて厳しい状況にさらされている。

なかでも、

1．漁業生産の基盤たる資源の持続的調和に配慮しつつ、関係漁業者が共存できる漁場の適切な管理と利用に関する事項

2．多様化する消費者の需要に即した漁業生産と、効率的な漁業経営確立のための水産金融対策の一層の充実に関する事項

3．適正な事業経営を行うことのできる漁業協同組合を育成し、その健全な発展に資するため、漁業協同組合の合併促進に関する事項

4．本県に於ける水産加工品の原材料供給事情や貿易事情の変化に対応し、今後の新たな水産加工品の開発もしくは加工に関する事項

の4項目の解決は、今後の本県水産業活性化への喫緊の課題である。

したがって、これら事項について、今後のあるべき姿の明確化を図ることは、二一世紀における本県水産業の創造を意味するとの強い認識に立ち、ここに「青森県二一世紀の水産を創造する会」を設立し、真摯な検討のもと、漁業に対する信頼の回復、生きがいのある漁業ならびに漁村の新たな創造を会の使命として、関係各界に対し責任ある提言を行い、その責務を明らかにせんとするものである。

【役員等】

会長	佐藤　立治	県水産振興会常務理事
副会長	後藤　亮丞	県水産振興会理事
理事	山本　政廣	西北水産振興会会長
〃	三津谷廣明	むつ湾漁業振興会会長
〃	川端　昭治	下北水産振興会会長
〃	赤石　憲二	青森県東部海域漁業協議会会長
監事	久保澤　正	県漁連専務理事
〃	長谷川公康	県信漁連専務理事
相談役	植村　正治	県漁連代表理事会長
〃	古川　俊	県信漁連代表理事会長
〃	福島　哲男	県漁船保険組合長理事
〃	奈良岡修一	県農林水産振興企画監
〃	石原　英司	大日本水産会専務理事

青森県大型クラゲ漁業被害防止対策連絡検討会設置

平成17年９月12日、「青森県大型クラゲ漁業被害防止対策連絡検討会」が設置され、青森県内全域に漁業被害をもたらしている大型クラゲについて、今後の被害防止対策や支援措置などの協議を行った。

会議は、県及び漁業団体の代表者が出席し会長に奈良岡県農林水産振興企画監を選任し、事務局は県水産振興課に置くこととし今後県・漁業団体が一体となって対策を講ずる。

※今年度の対策について

・迅速な来遊情報の収集と提供
・大型クラゲの混獲の回避又は軽減
・洋上駆除の実証試験、陸上処理の推進
・漁具改良をはじめとした各種技術開発
・金融措置等
・「クラゲ駆除の日」

青森県大型クラゲ漁業被害防止対策連絡検討会委員

平成17年９月12日設置

所属	職名	名前
青森県農林水産部	農林水産振興企画監	奈良岡　修一
〃	団体経営改善課長	山口　忠則
〃	水産振興課長	坪田　哲
〃	漁港漁場整備課長	竹内　春繁
青森県水産総合研究センター	所長	澤田　満
青森県漁業協同組合連合会	代表理事会長	植村　正治
青森県信用協同組合連合会	代表理事会長	古川　俊
青森県漁業共済組合	組合長理事	三津谷　廣明
青森県定置漁業協会	会長	西崎　義三
青森県機船底曳網漁業協同組合	代表理事組合長	柳谷　弟吉
青森県旋網漁業協同組合	代表理事組合長	福島　哲男
西北水産振興会	会長	山本　政廣
下北水産振興会	会長	川端　昭治
八戸みなと漁業協同組合	代表理事組合長	熊谷　拓治

県内漁協組合長改選報告

（平成17年10月末現在）

むつ市漁協　新谷富也組合長

（平成17年 9 月29日就任）

認定漁協の申請期限まで後わずか!!

認定漁協は、全国で127の漁協（平成17年９月１日現在）が認定されており、本県では平内町漁協と八戸みなと漁協の２漁協が認定されています。

認定漁協制度の期限は平成18年３月末ですが、平成17年度末までに合併が不確実な地区については、**「※事前認定」**を受けることができます。

※「事前認定」とは：平成17年度末の認定漁協制度期限までに合併ができない場合であっても、平成18・19年度中の合併が確実な場合は17年度中に知事により事前に「基盤強化計画」の認定を受ける制度。

また、この期限内に事前認定を受けるためには**「平成17年12月末までに県へ認定の申請」**を提出しなければなりません。

認定の申請には合併研究会を立ち上げ、「合併及び事業経営計画書（基盤強化計画）」を作成し、理事会の承認を得る必要があります。

現在合併研究会又は合併推進協議会が立ち上がっている地区では、急ピッチで事前認定申請書の作成作業が行われています。

ＪＦグループでは合併促進法の期限（19年度末）まで認定漁協制度の期限延長要望をしておりますが、水産庁では「認定漁協制度の延長は無い」と明言しています。

まだ合併研究会が立ち上がっていない地区については、早急に合併研究会を立ち上げ、事前認定申請に向けた作業を開始しなければ、認定漁協制度の期限までに認定を受けることができなくなる可能性があります。

認定申請状況

漁　協　名	現　況
平内町	平成16年10月４日認定済
八戸みなと	平成17年５月12日認定済
平舘村、蟹田町	合併申請と同時に認定申請予定 （合併予定日平成18年１月１日）
竜飛、三厩村、今別町西部、今別町東部	事前認定申請準備中
鰺ヶ沢、赤石水産、大戸瀬、風合瀬、深浦、舮作、岩崎村、大間越	事前認定申請準備中
青森市、後潟	事前認定申請準備中
野辺地町、横浜町	事前認定申請準備中
むつ市、川内町、脇野沢村	事前認定申請準備中

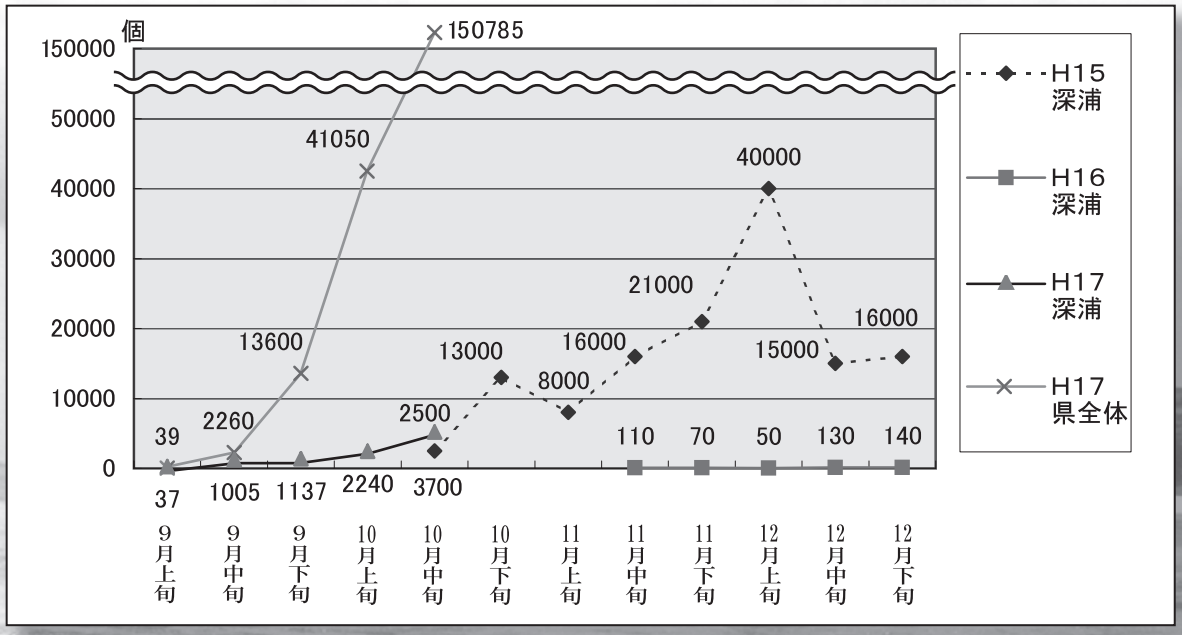
水産に関する主な動き（7月～9月）

7月	事　項	場　所
12(火)	東通地区漁協合併研究会	東通村
20(水)	三厩村・今別町地区４漁協合併に係る組合長会議	外ヶ浜町
21(木)	水協法改正説明会	東京都
21(木)	全国漁連信漁連指導担当部課長会議	東京都
23(土)	第５回和船競漕大会	青森市
25(月)	青森県さけます増殖振興協会通常総会	青森市
25(月)	青森県さけ流通振興協会通常総会	青森市
25(月)	むつ湾漁業振興会通常総会	青森市
25(月)	青森県ほたて漁業振興基金臨時総会	青森市
25(月)	青森地区漁協合併推進協議会正副組合長会議	青森市
26(火)	平舘村・蟹田町漁協合併研究会合併促進協議会設立	外ヶ浜町
27(水)	あわび等密漁撲滅連絡会議	岩手県
28(木)	第14回活力と魅力溢れる漁村づくり青森県大会『ＪＦ改革（漁協合併）促進大会』	青森市
29(金)	合併等推進全国会議	東京都
8月	事　項	場　所
1(月)	太平洋地区漁業者協議会	鰺ヶ沢町
4(木)	さけます資源管理連絡会議	札幌市
8(月)	六ヶ所３漁協合併研究会設立総会	六ヶ所村
10(水)	今別町・三厩村地区４漁協合併研究会	外ヶ浜町
11(木)	鰺ヶ沢・深浦地区８漁協合併第２回組合長会議	鰺ヶ沢町
22(月)	大型クラゲ対策全国会議	東京都
23(火)～24(水)	平成17年度東北・北海道漁協専務参事懇談会	岩手県
25(木)～26(金)	青森県定置漁業協会視察研修	東京都
31(水)	さけ取扱協議会	東通村
31(水)	青森県魅力ある魚礁漁場再生検討委員会	青森市
9月	事　項	場　所
1(木)	東通地区漁協合併研究会通常総会	東通村
6(火)	青森県漁協組合長・参事ブロック別会議（下北・太平洋地区）	むつ市
7(水)	青森県漁協組合長・参事ブロック別会議（日本海地区）	鰺ヶ沢町
8(木)	青森県漁協組合長・参事ブロック別会議（むつ湾地区）	青森市
12(月)	青森県大型クラゲ漁業被害対策連絡検討会	青森市
18(日)	ほたての祭典2005	平内町
20(火)～22(木)	青森県小型いか釣漁業協議会視察研修	北海道
28(水)	平成17年度青森県豊かな海づくり大会	青森市

浜の情報・話題

大型クラゲ出現状況

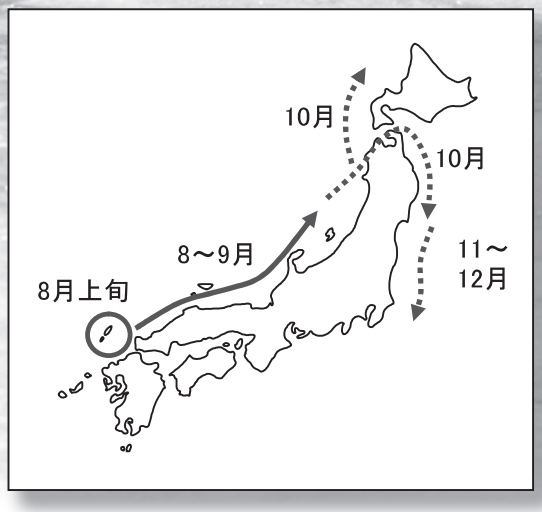
1．青森県全体（平成17年度）及び深浦漁協管内（平成15年度～17年度）



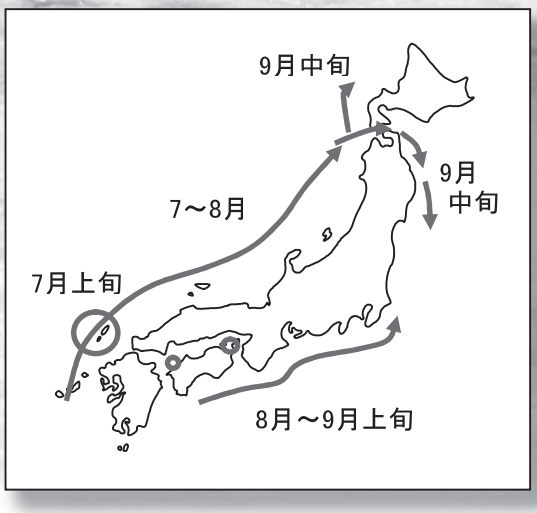
※H15は日本海地区（深浦等）が多く来遊した。　（H17は10月20日までの来遊状況）

2．回遊経路

平成15年度



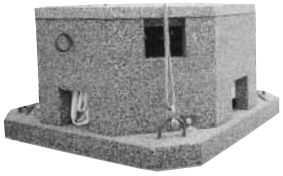
平成17年度（9月30日現在）



3．昭和以降の大型クラゲ大量出現記録

昭和13年前後	日本海沿岸、津軽海峡東口付近	平成14年	日本海、太平洋沿岸（千葉県まで）
昭和33年	日本海、太平洋沿岸（千葉県まで）	平成15年	日本海、太平洋沿岸（千葉県まで）
平成７年	日本海、太平洋沿岸（岩手県まで）	平成16年	来遊量は少なかった。

なまこ礁の愛称募集



［なまこ礁］
（製造元）株式会社　東實業
（製品名）なまこ資源増殖着定礁
（取扱店）青森県漁連　購買課

［特　徴］
（素材）粉砕ほたて貝殻と海砂・砕石を環境に無害な樹脂で成型したもので、環境にやさしい貝殻リサイクル製品。
（形状）八角形で重心が低く波浪による転倒、砕壊に耐える形状。
（構造）全壁面の透水性が良く、バクテリア、プランクトンの流出入が多い。また、天蓋による暗部と内部構造が、なまこの寝床として適している。

［愛称連絡先］青森県漁連　指導課　０１７－７２２－４２１８（12月末まで）

むつ小川原地域・産業振興財団の事業募集

財団法人むつ小川原地域・産業振興財団は、平成元年３月に原子力燃料サイクル事業者の協力のもとに青森県によって設立され、県内各地の産業振興や地域づくりの活動に幅広く支援しております。

平成18年度のむつ小川原地域・産業振興プロジェクト支援事業を次のとおり募集しております。

○助 成 事 業	地域の活性化及び産業の育成・振興を図る事業
○助　成　金	事業費の５分の４以内、助成限度額は１件当り200万円
○助成対象者	県内の市町村、産業団体、地域づくりグループなど
○募 集 期 間	平成17年10月１日～11月30日
○応募方法等	市役所（役場）総務課・企画課または財団まで
○応　募　先	財団法人むつ小川原地域・産業振興財団 〒030-0861　青森市長島２丁目10-4（ヤマウビル7Ｆ） TEL 017-773-6222　FAX 017-773-6245 ホームページ　http://www.jomon.ne.jp/~mozaidan/

県内漁協職員紹介

蟹田町漁協

外ヶ浜町は、津軽半島北端の三厩村と津軽半島の陸奥湾に面した蟹田町、平舘村が2005年3月28日、合併して誕生した町です。新町名は津軽半島を背にした陸奥湾一帯の呼称。総面積229.92㎢、人口8,308人、漁業が中心の町です。

今回は、平成18年１月１日、平舘村漁協と合併をする「蟹田町漁協」の皆さんをご紹介致します。

蟹田地区の春先の名物「白魚漁」と「トゲクリガニ」

石岡秀昭

1．総務課長
2．平凡
3．国技館で大相撲を観戦したい。

沼田謙一

1．参事
2．お酒大好き
3．桜前線を追いかけたい

1．担当業務
2．趣味・特技
3．自己ＰＲ

津嶋潤

1．塩越所支店長
2．酒、パチンコ、朝のウォーキング
3．私の活力原
①酒を飲みながら島津亜矢のＤＶＤを見ること
②パチンコへ行く途中、車で島津亜矢のＣＤを聴くこと

五十嵐光明

1．共済課長
2．ドライブ（すぐそこまで）
3．１日を満喫すること。

松尾政行

1．業務課長
2．ドライブ
3．大好きなのにいつも負けているパチンコを休業し、現在は温泉を楽しんでいます。（歳だなぁ!!）

石岡清則

1．業務課係長
2．食べ歩き、秘密結社
3．もう中年なのでゴルフでも始めよっかなー。

石岡広志

1．業務課長課長補佐
2．趣味を持てないこと（長続きしないらしい？）
3．親バカ（娘は嫁にやらんぞーの会、会長、会員１名）

石岡君江

1．総務課係長
2．食べること、無芸大食
3．いまだに浜の奥様方に「オキミ」（ちゃん、さん）で呼ばれている私は何者？

松本裕美

1．青色申告会指導員
2．読書、スポーツ（特に走る事と野球は大好き）友達とトランプ
3．いつも明るく健康でいたいと思っているので毎日寝る前にストレッチ体操をしています。だからこの歳？わりには体が柔らかいかな？

田中博之

1．業務主任
2．パチンコ、野球、チョップ
3．酒が恋人のつまらない男です。かなりヤバイ…（腹が）

小川一也

1．指導課主任
2．パチンコ
3．タバコやめました！やっぱり体重増えました…

編集後記

今回紹介した蟹田町漁協は来年一月一日に合併し、同時に認定漁協の認定を受けますが、現在まで決して順風満帆で来たわけではありません。協議を積み重ねて様々な問題を一つ一つ解決するなど、役職員の努力が実ったものであり、敬意を表したいと思います。現在事務局でも数箇所の地区で事前認定申請の作業を進めていますが、申請の期限が一ヶ月を切ってしまいました。皆さんも急いで作業に着手しましょう。

■平成17年11月10日発行　■発行：青森県漁業協同組合連合会青森市安方一丁目１番地32号　TEL017-722-4211㈹
■印刷：青森コロニー印刷